



あんないっしょ、いっしょあんないっしょ

FLOWN PIAPIA

写真 4 写真 6
11/9.10 創ろう、守ろう、ふるさとの文化

御荘文化センターを主会場に、城の辺学習館、平城交流センターで、町文化協会(宮岡秀幸会長)主催による「愛南町文化祭」が2日間にわたって開催されました。今年は「創ろう、守ろう、ふるさとの文化」をテーマに、町文化協会に加盟する41団体の展示・研究と41団体の発表が行われました。

写真 5
11/9 すべての人が住みやすい町に・・・

障害のある子どもの家族と支援者で活動を行う「ありんこくらぶ」(宮崎和友会長)が、一本松交流促進センターで「第16回ありんこくらぶの催し」を開催しました。

今回の催しでは、元茨城キリスト教大学看護学部教授の藤村真弓先生が『きょうだい支援の大切さ』と題して講演を行い、藤村先生が看護現場で遭遇してきた、病児や障害児の“きょうだい”に起こる問題について触れ、「幼い子どもの闘病の陰には寂しさを抱えた兄弟姉妹もいることを忘れないでほしい」と訴えました。

また、講演に先立ち、盲導犬利用者の気持ちを少しでも分かってもらおうと、目隠しをして盲導犬の先導で歩く体験コーナーもありました。

本日!海日和!! vol.37 「メリークリスマス」



何に見える?

愛南町には多くの種類のサンゴが成育しているが、その中に写真のような生き物を見つけることができる。

英語でクリスマス・ツリー・ワームと、おしゃれな名前が付いている。ワームというのはゴカイの仲間という意味である。日本語ではイバラカンザシという。日本人には「かんざし」に、欧米人には「クリスマス・ツリー」に見えたのだろう。文化の違いがみられるものの、どちらも素敵な名前である。

10円玉ほどの大きさで、サンゴに穴をあけて住んでいる。普段は、クリスマス・ツリーに見えるえらの部分を外に出して呼吸をしている。驚くと一瞬で穴の中に引っ込んでしまうが、しばらくするとゆっくりと出てくる。その様子は花が咲くようで美しく、何度も指でついでしまう。

本物のクリスマス・ツリーは年末だけだが、この小さなクリスマス・ツリーは、一年中、ダイバーを華やかな気分にしてくれる。

(写真:イバラカンザシ 撮影地:鹿島) 愛南サンゴを守る会 西尾知照



闘牛による
迫力の結び



写真 1
10/ 18 芸術の秋を満喫

長月小学校で、御荘平城出身のコントラバス奏者、吉本宗司さんをはじめとする弦楽器などの奏者を招いてミニコンサートが開催されました。

子どもたちは、開演のあいさつで吉田章代校長が「心、目、耳、体全体で本物の音楽を感じてください」と話したとおり、美しい弦楽器の音色に聴き入っていました。

また、福村拓哉くん(4年)と竹平優彩さん(3年)が指揮者に挑戦する場面もあり、慣れない手つきでタクトを振って弦楽器八重奏を指揮しました。

写真 2
10/ 20 満開のコスモスに囲まれて

今年で8回目となった秋の恒例行事「ふるさと一本松祭」が広見コミュニティセンター周辺で開催されました。

会場では地元物産品販売などがあったほか、特設ステージで福浦小学校児童による「福浦風の子太鼓」や『羅り瑠れ櫓連』(大洲市)の「よさこい踊り」などが披露され、多くの来場者で賑わいました。

また、会場の田んぼに作られた特設土俵では闘牛の土俵入りや迫力の結びも行われました。

写真 3
11/ 5 ミュージカルに挑戦

日頃、舞台に触れる機会の少ない子どもたちにミュージカルの楽しさを感じてもらおうと、文化庁主催による「子ども体験授業」が福浦小学校で行われ、福浦小学校をはじめ、船越小、中浦小の児童や地元住民の皆さんがミュージカルの舞台を楽しみました。

「体験授業」では、全国巡回公演などで年間平均300ステージもの上演をこなす劇団ポプラ(東京都)が、『オズの魔法使い』を上演し、劇中の冒頭などでは、福浦小の全児童が、この公演のために練習した歌でプロの劇団と共演しました。